

## 2007年度 活動状況

2008年3月28日

- 平成19年11月 1日 里親学生支援室立ち上げ
- 平成19年11月12日 医療人育成教育研究センター里親学生支援室開催  
学内委員(9名)学外委員(4名)
- 平成19年11月27日 医療人育成教育研究センター里親学生支援室打ち合わせ開催  
ボランティア連絡協議会に出席し、趣旨説明
- 平成19年11月上旬 在学中の学生を対象として「地域医療関心度」調査を実施
- 平成19年12月17日 「今どきの学生」に関する調査開始(締切1月9日)
- 平成20年 1月16日 医療人育成教育研究センター里親学生支援室打ち合わせ開催
- 平成20年 1月28日 FD研修会開催 「今どきの学生」について 参加者58名
- 平成20年 2月 1日 医療人育成教育研究センター里親学生支援室打ち合わせ開催
- 平成20年 2月 9日 「大学教育改革プログラム合同フォーラム」ポスターセッション  
参加 3名
- 平成20年 2月19日 医療人育成教育研究センター里親学生支援室打ち合わせ開催
- 平成20年 3月 6日 里親募集チラシ・ポスターの発送  
(卒業生宛 県内従事者、県内在住者 医学761 看護139)
- 平成20年 3月11日 FD研修会開催案内の発送  
(卒業生宛 10期末満 県内従事者、県内在住者 453)
- 平成20年 3月16日 FD研修会開催 里親募集および趣旨説明、意見交換  
水口・彦根 大津
- 平成20年 3月16日 新聞広告掲載  
～18日 読売・中日・毎日・朝日・産経・京都
- 平成20年 3月20日 後援会に出席し、プチ里親募集および趣旨説明、意見交換

## FD研修会「プログラム説明会および意見交換会」の開催

2008年3月17日

2008/3/16 (日)

FD研修会・意見交換会を実施

大津地区……………	ピアザ淡海	10時30分～12時
水口・甲賀地区………	水口センチュリーホテル	10時～11時30分
彦根・長浜地区………	彦根プリンスホテル	15時～16時30分

※地域「里親」医学生支援プログラムの説明会および意見交換会

【大津地区会場】

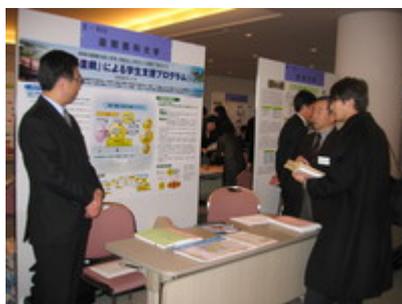


【彦根・長浜地区会場】



2008/2/9 (土) 会場：横浜パシフィコ

フォーラム会場において、各校がそれぞれ作成した掲示物・資料等により、選定された取組に関する情報発信を行いました。



## FD研修会「今どきの学生」の開催

2008年1月29日

2008/1/28（月）

「今どきの学生」についてFD研修会を実施

看護学科棟1階 看護第1講義室 18:00～19:00

コメンテーター

生化学・分子生物学講座 分子生理化学

堀池 喜八郎 教授

保健管理センター

村下 淳 講師



研修会に多数ご参加いただきありがとうございました。

調査の結果に基づいて、対応方法等情報の共有を図り、活発な意見交換が行われました。

本年度の補助事業実施計画

10月：本取り組みを行う実務組織(里親学生支援室)を立ち上げる。

10月～12月：同窓会、本学献体篤志家の会等に対して、本取り組みの主旨を説明する会の実施

10月～12月：支援効果の判定のために、在学中の学生を対象として「地域医療関心度」調査を実施

11月～ 3月：「里親バンク」を作り、サポート用のDBサーバー・WEBシステムを構築

1月～ 3月：教職員対象FDの開催

1月～ 3月：「里親」「プチ里親」の募集

3月：「里親」「プチ里親」FDの開催

平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

## 申請状況

区分	国立	公立	私立	計
大学	74	19	114	207
短期大学	-	1	28	29
高等専門学校	36	0	0	36
計	110	20	142	272

## 選定状況

区分	国立	公立	私立	計
大学	21	6	21	48
短期大学	-	0	11	11
高等専門学校	11	0	0	11
計	32	6	32	70

## 選定理由

プログラムの名称	地域「里親」による医学生支援プログラム
<p>(選定理由)</p> <p>滋賀医科大学においては、学生支援に関して、明確な理念と目標に基づき積極的に取り組み、充実した組織体制の下において、学生支援施策に対する充実した評価・改善方法を構築するとともに、学生支援に係わる教職員の資質向上にも十分な取組を実施し、正課・課外の両側面にわたって多彩かつきめ細かな学生支援対策を進め、学生支援に大きな成果を上げています。</p> <p>今回申請のあった「地域「里親」による医学生支援プログラム」は、社会的ニーズに対応する「地域医療の担い手の育成」という明確な目的を持ち、しかも従来の学生支援と連携を図りながら、卒業生(地域で活躍中の卒業生)を「里親」住民(献体登録者や模擬患者などとして教育にご協力いただいている地域住民)を「プチ里親」とする地域参加型の学生支援を実施するという工夫を凝らした独自の取組であると判断します。</p> <p>特に、医学部学生の抱える悩み・不安に着目し「里親」・「プチ里親」との交流を通して、学生の不安や悩みに対応しつつ学生の人間的成長を図り、学生の地域医療に対するモチベーションを喚起しようとする積極的な取組は、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。</p>	

# 「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

2007年8月1日

## 【背景】

近年、進学率の上昇、国際化の進展に伴う外国からの留学生、教育内容の多様化や高度化など、学生を取り巻く環境が大きく変化しており、また、資質、能力、知識の異なる多様な学生が増加しています。

加えて、少子化、ニート・フリーターなどの様々な社会的課題も生じており、このような中で、大学等における学生支援においても、従来の取組に比してより一層の工夫・充実が求められています。

さらに、平成17年1月の中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」において、早急に取り組むべき重点施策の一つとして「学生支援の充実・体系化」が取り上げられているなど、大学等における学生支援の充実は重要な課題であり、国公立の大学等を通じ、競争的な環境の下で取組を支援していく必要があります。

## 【目的】

文部科学省では、平成19年度より、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため 各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段な効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図ることを目的とします。

